

第二章活用事例

「ワンダフル・ヒトミ」―人見 絹枝―

小学校三・四年生版
「心しなやかに」 p.54
s
p.61

【主題名】 最後まであきらめぬ

第三学年及び第四学年 1-②

「自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる。」

【ねらい】 自分でやろうと決めたこと、「あきらめずに取り組み、粘り強くやり遂げる」という意欲を育てる。

《ねらいとする道徳的価値について》三・四年生の時期の児童は、目標に向かって意欲的に取り組もうとする反面、少しうまくいかないとあきらめると簡単に投げ出してしまうことがあります。自分を成長させるのはまず自分であるということに気付かせ、途中であきらめず最後まで粘り強くやり遂げようとする姿勢を身に付けさせることが、理想とする自己を実現しようとする意欲を育てることが大切です。



「日本初の女性オリンピック選手の人見絹枝さんを紹介します。」

○プラハ（チェコ）にある人見絹江の記念碑や人見絹枝が活躍している写真を提示し、資料への興味をもたせましょう。

○アムステルダムオリンピック日本選手四十三名中、たった一人の女性選手であったことなどを説明するのもよいでしょう。

○教師が「ワンダフル・ヒトミ」を読み聞かせましょう。



「新聞記者でもある絹枝が、夜も練習し努力し続けたのは、どのような思いからでしょうか。」

○何としてもオリンピックに出たい、すばらしい記録を出してメダルをとりたいたいという絹枝の強い思いを捉えさせましょう。



中心発問

「オリンピックで、今まで出場したことのない八百メートル走への出場を決心したとき、絹枝はどのような気持ちだったでしょうか。」

○百メートル走で決勝に進めなかったときに、絹枝がどのような思いだったかに着目させ、そこから八百メートル走への出場を決心するまでの心情の変化を捉えさせましょう。

《評価》 困難にぶつかっても、自分の目標を達成するため最後まであきらめずに取り組みもうとする気持ちの大切さに気付くことができたか。



「銀メダルを手に入れた絹枝は、どのような気持ちで国旗を見つめていたでしょうか。」

○絹枝の達成感を捉えさせ、努力し続けることや最後まであきらめずにやり遂げることの大切さに気付かせましょう。



「自分でやろうと決めたことをやり遂げたことはありますか。そのとき、どのような気持ちでしたか。」

○あきらめずに取り組み、粘り強くやり遂げたことについて、自分の体験をふり返らせ、そのときの達成感をこれからの取組への意欲につなげさせましょう。

○教師自身が、あきらめずに取り組み最後までやり遂げた体験を、子供たちに語りましょう。

終末

○「心しなやかに」 p.4 の岡本太郎の言葉をみんなで読み、夢に向かって努力することの大切さを確かめて、授業のまとめにしましょう。

板書例

ワンダフル・ヒトミ ―人見 絹枝―

人見絹枝記念碑の写真（プラハ）



人見絹枝が活躍する写真



新聞きしゃでもある絹枝が、夜もれんしゅうしどりよくし続けたのは、どのような思いからでしょうか。

- 日本人女性としてオリンピックに出たい。
- すばらしい記録を出して、メダルをとりたい。
- そのためなら、どれほど苦しくても努力する。

オリンピックで、今まで出場したことのない八百メートル走への出場をけっしんしたとき、絹枝はどのような気持ちだったでしょうか。

絹枝が出場を訴える挿絵

- 百メートル走ではよいけっかをかせなかつた。このままではどりよくがむだになつてしまふ。
- このくやしきをはらすには、八百メートル走に出るメダルにしようせんすしかない。
- オリンピックに出てメダルをとるといふ自分の目標を、ここであきらめるわけにはいかない。

銀メダルを手に入れた絹枝は、どのような気持ちで国旗を見つめていたでしょうか。

喜び絹枝の写真

- これまでのどりよくはむだではなかつた。どりよくしてきてよかつた。
- オリンピックでメダルをとるために、がんばってきた。そのゆめをかなえることができ、うれしい。
- 最後まであきらめず、ちようせんし続けたからメダルがとれたのだ。

自分でやろうときめたことをやりとげたことはありますか。そのとき、どのような気持ちでしたか。

- 級を上げるために、夏のプールに毎日通つてがんばつたら、級が上がつた。どりよくしてよかつた。
- かん字テストで百点をとるときめてれんしゅうをつづけた。百点がとれたときは、とてもうれしかった。
- サッカーがじょうずになるために、毎朝早くおきて、一時間れんしゅうした。この前のしあい点をとることができたとき、もっともつとがんばろうと思つた。

《評価》

自分でやろうと決めたことに、あきらめずに取り組み、粘り強くやり遂げようとする意欲を育てることができたか。